

2024（令和6）年度

駒澤大学 × SDGs 活動報告書



駒澤大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



目 次

1. 学長メッセージ	03
2. SDGs とは	04
3. 駒澤大学SDGs 実行宣言	05
4. 2024（令和6）年度 駒澤大学における「SDGs」について取組み	07
(SDG：3) すべての人に健康と福祉を	08
(SDG：4) 質の高い教育をみんなに	15
(SDG：5) ジェンダー平等を実現しよう	25
(SDG：7) エネルギーをみんなに そしてクリーンに	31
(SDG：10) 人や国の不平等をなくそう	32
(SDG：11) 住み続けられるまちづくりを	34
(SDG：12) つくる責任 つかう責任	38
(SDG：16) 平和と公正をすべての人に	40
(SDG：17) パートナーシップで目標を達成しよう	41
(SDGs 全般)	42
リンク集	43

学長メッセージ

駒澤大学は、「仏教の教えと禅の精神」を建学の理念に掲げ、教育・研究や社会貢献のたゆまぬ努力や改革によって、時代に応じた大学教育のあるべき姿を究明してまいりました。国連が2030年までに世界中の国々が達成を目指すべき共通の目標として掲げた「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」についても、仏教を根幹とする大学として、「智慧（ちえ）と慈悲（じひ）」の心をもって取り組んでまいりました。「智慧と慈悲」は、本質の洞察に基づいて、あらゆるものを大切に扱うということです。この心は、SDGsの基本理念である「誰一人取り残さない社会の実現（leave no one behind）」と通じるものであり、SDGsの17の目標は、本学が目指し続けてきた社会の実現のための目標でもあります。

駒澤大学は、長期ビジョン「駒澤2030」として、「自他協創」を掲げています。「自他協創」は、建学の理念に基づく「自利・利他」を一言にまとめた「自他」と人と人をつなげるネットワークを活用し、革新的なアイデアを生み出す力を表現したビジネス用語である「協創」を繋げた造語です。多様なつながりの中で培われた広い視野と、自他への深い洞察により、いかなる状況下においても本質を見極め、人と人との思いの「繋がり」を駆使し、社会変化を乗り越えるための自己研鑽をし続け、成長し続けることを志しています。

2021年4月に学長就任の際、本学の目指すべき方向性として、「デジタル化（DX）の推進による大学のマネジメント改革」と「ダイバーシティ（多様性）の尊重による個を活かす大学」の2つを掲げ、今日までこれを推進してまいりました。本学が掲げる「ダイバーシティの尊重による個を活かす大学」という目標は、共生社会の実現につながるものであり、デジタル化はダイバーシティの尊重を支える大切な手段です。今の日本が先進国の中で遅れをとってしまった「デジタル化（DX）の推進」と「ダイバーシティの尊重」の分野で引き続きアクションを起こし続けることにより、社会的課題の解決のために貢献したいと考えております。

今年度も、駒澤大学の学生及び教職員によって数多くのSDGs推進活動がなされました。それぞれの活動報告から、互いを思い合い、意見を交わし、協働して課題解決に向けて取り組んだことが伝わってまいりました。持続可能な社会を実現する方法は多様にあります。『駒澤大学×SDGs活動報告書』に掲載されている事例が、今後の活動のヒントになれば幸甚です。本報告書等を通じて、これからも本学のSDGs活動について紹介してまいります。

今後も、駒澤大学の根幹である「仏教の教えと禅の精神」にある「智慧と慈悲」をSDGs活動に取り組む際の心のよりどころとしながら、個が生きる社会の実現に向けて、教職員、学生、地域社会、様々なステークホルダーと協働し、一層取り組みを推進いたします。

駒澤大学学長 各務 洋子

SDGsとは

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。

（出典：外務省ホームページ）

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>

■SDGs17の目標

 <p>1 貧困をなくそう</p>	あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる	 <p>2 飢餓をゼロに</p>	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する
 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する
 <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う	 <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
 <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する	 <p>8 働きがいも経済成長も</p>	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
 <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る	 <p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	国内及び各国家間の不平等を是正する
 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する	 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	持続可能な消費生産形態を確保する
 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる	 <p>14 海の豊かさを守ろう</p>	持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
 <p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する	 <p>16 平和と公正をすべての人に</p>	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
 <p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p>	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する		

駒澤大学 SDGs実行宣言

駒澤大学は、近未来における地球的規模での危機を十分に認識し、人類及び世界における持続可能な社会の構築のために2015年9月に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）」に共感・賛同し、その達成に向けて、各国・各機関・各組織等をはじめとする様々な人々と密接に協力し、本学の教育・研究等の諸活動において、全学的に、積極的に貢献していくことを、ここに宣言します。

駒澤大学は、建学の理念「仏教の教義と曹洞宗立宗の精神」に基づき、「ともに、よりよい明日を築く」ことをその使命としてまいりました。これを原点として、近時、喫緊の課題となっている「ダイバーシティ&インクルージョン（多様性を認め、受け入れて活かすこと）」を推し進めるために、〈個〉を活かした「しなやかな大学の実現」を目指しています。

私たちは、長きにわたって本学が堅持してきた仏教的価値観が、「SDGs」という人類の英知に基づく網羅的な課題認識と呼応すると受け止め、「誰一人取り残さない社会の実現」と、「あらゆる存在を尊重する社会の実現」に向けて、今後とも主体的に目指してまいります。

「誰一人取り残すことなく、ともに、あらゆる存在を尊重する社会の実現」のために、本学は教職員、学生、地域社会など、様々なステークホルダーと協働し、以下のSDGsの達成に向けた行動目標を定め、積極的かつ具体的に取り組みを進めてまいります。

SDGsの達成に向けた行動目標

- (教育) 駒澤大学は、質の高い教育の維持に努め、自ら考え、行動する人材を育成します。
- (研究) 駒澤大学は、専門的な学問の研究、技術開発の研究を推進し、その実践を目指します。
- (協働) 駒澤大学は、パートナーと協働し、知の拠点として情報を発信し、SDGsの達成に貢献します。

2022年4月28日
駒澤大学



Komazawa University SDGs Declaration

Komazawa University is fully cognizant of the risk of a global-scale crisis in the near future. We support the Sustainable Development Goals (SDGs), which were adopted at the September 2015 UN Summit with the aim of building a sustainable society for people and for the world. We hereby declare our intention to work closely together with countries, institutions, organizations, and various other parties and, through our education and research activities, to contribute to the achievement of these goals.

“Buddhist Teachings and the Spirit of Zen” are our founding principles, and our mission is “building a brighter future, together.” In order to encourage diversity and inclusion, which has in recent years become an issue of great importance, we seek to become a flexible university that maximizes “individuality.”

We have been committed to Buddhist values for many years, and we believe these values are closely compatible with SDGs, which are a reasoned summation of the issues facing our planet. Going forward, we will actively seek to realize a society in which no one is left behind, and in which all forms of life are respected.

For the sake of a society in which no one is left behind, and in which all forms of life are respected, our university has worked together with various stakeholders—including our academic staff, students, and local communities—to formulate the target actions listed below to achieve SDGs. We will actively implement concrete initiatives to this end.

Target actions to achieve SDGs:

- | | |
|-----------------|---|
| (Education) | At Komazawa University, we will endeavor to provide a consistently high level of education, and nurture people capable of thinking and acting for themselves. |
| (Research) | At Komazawa University, we will encourage research in specialized fields of learning and research in technical development, and seek to put the fruit of this research into practice. |
| (Collaboration) | At Komazawa University, we will work together with our partners, transmit information as a bastion of learning, and contribute to the realization of SDGs. |

Komazawa University
April 28, 2022



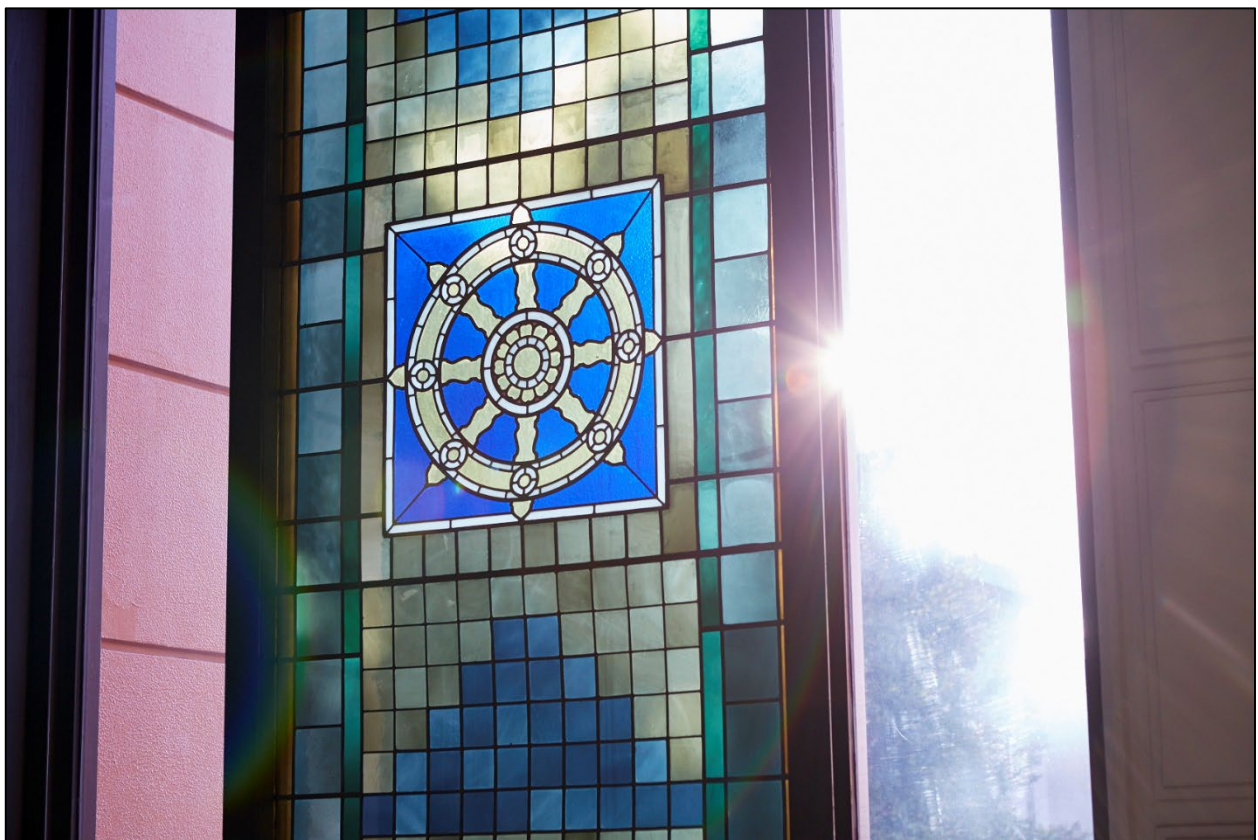
2024年度 駒澤大学における「SDGs」についての取り組み

駒澤大学では、「SDGs」に関連した取り組みを行っています。また教育活動、研究活動においても「SDGs」について取り扱い、その目指す社会の実現に向けて広く活動を行っています。

ここでは2024年度の本学の取り組みの一部を17の目標別に紹介します。

また、SDGsの一層の理解と活動のさらなる活性化に向けて、昨年度より本報告書とは別に「駒澤大学×SDGs 学生対象意識調査結果報告書」を発行しています。

本学ホームページにて公開していますのであわせてご覧ください。





世田谷区ACPポスター活用

世田谷区ACP療養講座にてポスター展示

経営学部

小野瀬拡ゼミナール

小野瀬ゼミナールでは、2023年度の駒大生社会連携プロジェクト「世田谷区ACP普及啓発のためのデザイン」の活動を引き続き実施しています。本年1月に世田谷区長にお渡しした学生制作のACPポスターは世田谷区各所で掲示されました。本年度は、9月28日で開催された令和6年度在宅療養講演会・シンポジウム「住み慣れた地域で最期まで安心して暮らし続けるために」及び11月30日開催の在宅療養・ACP講座「わたらしい生き方、暮らし方を考える」の世田谷区立保健医療福祉総合プラザで開催された二つの行事で展示されました。



在宅療養講演会・シンポジウム掲示
(9月28日 世田谷区立保健医療福祉総合プラザ)



在宅療養・ACP講座 (11月30日 世田谷区立保健医療福祉総合プラザ)



学生による人間ドック受診勧奨ポスター

マーソ株式会社と提携し人間ドック受診勧奨ポスターを制作しました

経営学部

小野瀬拡ゼミナール

小野瀬拡ゼミナールの学生が、マーソ株式会社と協働し予防医療を推進するため、[人間ドックの受診を呼びかけるポスター](#)をデザインしました。この問題の基本的理解のため、5月7日（火）にマーソ株式会社の 大石 晃生 氏による「人間ドックの重要性」をテーマにした講義を実施しました。その後出し合ったアイデアをもとに個別にデザインを行いました。数値や表現の適切さについては大石氏の指導を受け、ポスターが完成しました。高大接続行事「ゼミ体験」では、駒澤大学高等学校の生徒にも取り組みを紹介いたしました。完成したポスターは学内に掲示され予防医療の重要性を呼び掛けています。



大石氏講義（5月7日 3-201教場）



ゼミ体験でのワーク（7月16日 3-201教場）



保健管理センター前掲示板



駒澤大学公開講座 健康づくり教室

1984年より地域の皆様の健康増進

学術研究推進部

社会連携課(社会連携センター)

本学では、大学における研究と教育の成果を広く社会に還元し、また大学の施設を開放することにより、地域の皆さまの健康増進の一助となることを目的として、1984年4月から「[健康づくり教室](#)」を開講しています。

地域の皆さまのご要望によって新たに種目を取り入れるなど工夫を重ねながら、今日まで継続しております。

2024年度の健康づくり教室

<第1期>

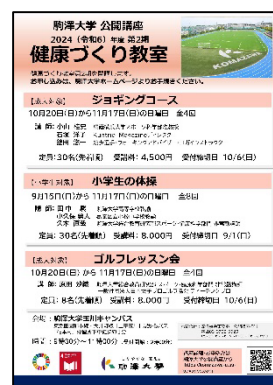
ジョギングコース	2024年 4月14日 (日) ~2024年 6月 9日 (日) の日曜日	全8回
小学生の体操	2024年 5月12日 (日) ~2024年 7月21日 (日) の日曜日	全8回
ゴルフレッスン会	2024年 4月14日 (日) ~2024年 5月12日 (日) の日曜日	全4回

<第2期>

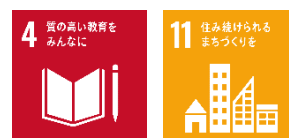
ジョギングコース	2024年10月20日 (日) ~2024年11月17日 (日) の日曜日	全4回
小学生の体操	2024年 9月15日 (日) ~2024年11月17日 (日) の日曜日	全8回
ゴルフレッスン会	2024年10月20日 (日) ~2024年11月17日 (日) の日曜日	全4回

<第3期>

ジョギングコース	2025年 1月12日 (日) ~2025年 2月 2日 (日) の日曜日	全4回
小学生の体操	2025年 1月12日 (日) ~2025年 2月 2日 (日) の日曜日	全4回
ゴルフレッスン会	2025年 1月12日 (日) ~2025年 2月 2日 (日) の日曜日	全4回



関連するSDGs





コミュニティ・ケアセンターの取り組み

コミュニティ・ケアセンター

駒澤大学コミュニティ・ケアセンターでは、メンタルヘルス、対人関係、お子さんの発達・教育などに関する問題や悩みについて心理的援助（カウンセリング、心理テスト、自律訓練法等）を行っています。

●コミュニティ・ケアセンター 第37回公開講座

【子どもの育ちを理解する】

《開催日時》10月26日（土） 13：30～15：30

講演1 『発達障害ってなんだろう』

講師：遠藤 歩（駒澤大学文学部准教授）

講演2 『心理臨床からみるこどもと育ち』

講師：西垣 紀子（駒澤大学コミュニティ・ケアセンター相談員）

●コミュニティ・ケアセンター 第38回公開講座

【チームを生かす実践学校カウンセリング】

《開催日時》12月12日（木） 18：30～20：30

講師：石津 憲一郎（富山大学大学院教職実践開発研究科教授）

駒澤大学コミュニティ・ケアセンター
第37回公開講座

子どもの育ちを理解する

2024年10月26日(土) 13:30~15:30(13:00開場)

入場無料
先着50名

◇◇13:30~◇◇
講師：遠藤歩
駒澤大学文学部准教授
『発達障害ってなんだろう』

◇◇14:30~◇◇
講師：西垣紀子
駒澤大学コミュニティ・ケアセンター相談員
『心理臨床からみるこどもと育ち』

会場：中央講堂
駒沢キャンパス本部棟4階
※駐車場はございませんので、
電車・バス等をご利用ください。

コミュニティ・ケアセンターのHP もしくは
お電話(☎03-5431-5200)にてお申し込みください

第38回公開講座
駒澤大学コミュニティ・ケアセンター

チームを生かす
実践学校カウンセリング

日時 2024年12月12日(木)18:30~20:30

場所 オンライン開催 (Zoom)
(お申込みいただいた方に、後日 URLをお送り致します)

講師 石津 憲一郎先生
富山大学 大学院教職実践開発研究科
学校カウンセリング、チーム支援、
コンパッション、感情調整等を専門領域とし、
ACTプログラムに関する研究等に携わっている。
(主な著書)『学校心理学が提案! これからの生徒指導 - 『生徒指導提要』を学校心理学の視点から読み解く』(ほんの森出版)、『学校で気になる子どものサイン増補改訂版』(少年写真新聞社)

参加費：無料
定員：90名(定員に達し次第締切とさせていただきます)

参加対象者：臨床心理士、公認心理師、医師、教員、
子どもに関わる専門職、臨床心理学専攻の大学院生など

お申込：<https://forms.gle/szK21vRuJNaNzpQx5>
(Google formにアクセスします)

関連するSDGs





「スポーツフェスティバル in 玉川 2024」

体育会サークル所属学生による様々なイベントを行いました

学生支援センター

学生課 学生係

11月24日（日）、玉川キャンパスで「[スポーツフェスティバル in 玉川 2024](#)」が開催されました。このイベントは、主に小学生を対象に「大学と地域社会との交流」と「地域における共生社会の実現」を目的として毎年行われています。

当日は晴天に恵まれ、グラウンドや体育館で学生アスリートによるスポーツ教室や体験会など、体育会サークル所属学生による様々なイベントが行われ、参加者は多くの競技に挑戦しました。

また、喜多見児童館・大塚製薬(株)・スフィード世田谷・駒澤大学放射線同窓会（順不同・敬称略）の協賛の元、食育やブラインドサッカー・骨密度測定などを実施いたしました。



関連するSDGs





「食支援プロジェクト」第6弾

学生支援とフードロス防止を目的に食品等を無償配布

学生支援センター

学生支援推進課 学生支援推進係

7月18日（木）・19日（金）、学生を対象とした「食支援プロジェクト」第6弾を開催しました。

このプロジェクトは、本学が学生支援とフードロス防止を目的に食品等を無償配布する取り組みで、2021年度から継続的に実施しています。

開催に際しては、駒澤大学教育後援会（父母会）をはじめ、たくさんの企業・団体・個人の皆さまからご支援をいただいています。

また、昨年度に引き続き、大塚製薬株式会社、世田谷区と協同で、栄養士との相談や野菜摂取量が測定できるブースなども併設し、学生自身が健康を考える機会にも繋げました。

今年度は、2日間で3,178人の学生が来場し、6万点以上の食料品を無償配付しました。学生からは「野菜を意識して摂り、健康に気を付けようと思った」、「物価が上がっている中、この取り組みはとてありがたい」といった言葉が寄せられました。

配付の様子は、[駒澤大学学生支援センターのInstagram](#)をご覧ください。

なお、本学では「[駒澤大学カラダスマイルプログラム](#)」として学生の健康支援に取り組んでおり、「食支援プロジェクト」もその一環として行われています。



関連するSDGs





カラダスマイルプログラム

「朝だけ10円サラダ」と「ランチ50円サラダバー」を実施

総務部／学生支援センター

学生支援推進課 学生支援推進係

駒沢キャンパス学生食堂にて、学生対象の「朝だけ10円サラダ」・「ランチ50円サラダバー」を実施しました。

この取り組みは、2023年度の野菜摂取量測定において、本学学生の野菜摂取不足が明らかになったことから、栄養バランスの良い食生活を意識してもらうために、駒澤大学教育後援会（父母会）・銀座スエヒロカフェテリアサービス・株式会社ニッポンの協力のもと企画したものです。

また、2024年度からは、カゴメ株式会社の「ベジチェック®」を学内に設置しています。推定野菜摂取量を手軽に測定できるようになったことで、毎日の食生活の改善に役立てられます。

なお、本学では「駒澤大学カラダスマイルプログラム」として学生の健康支援に取り組んでおり、これらの取り組みはその一環として行われています。





大本山總持寺太祖瑩山禪師700回大遠忌特別拝登

禅文化歴史博物館

4月2日（火）、曹洞宗大本山總持寺（だいほんざんそうじじ/所在地：神奈川県横浜市鶴見区）を開かれ、正中2（1325）年に亡くなられた太祖瑩山禪師700回大遠忌に参加しました。

本学からは、永井政之総長、各務洋子学長ほか、学生、教職員計62人が参加しました。永井総長が焼香師を勤め、多くの弟子を教育し禅の教えを広めるために尽力された瑩山禪師の遺徳を偲ぶと共に社会の安寧を祈念しました。

また、参拝にあわせ修行僧の案内を受けて諸堂を拝観しました。修行道場の厳粛な雰囲気を知る貴重な機会となりました。



参照：① [【学内者限定】大本山總持寺太祖瑩山禪師700回大遠忌特別拝登（2024. 4. 2）](#)
② [大本山總持寺の太祖瑩山禪師700回大遠忌に特別拝登をしました](#)

関連するSDGs





禅・仏教の文化・歴史を広く世界に向けて公開

学芸員養成に資する場としても教育研究活動に貢献しています

禅文化歴史博物館

駒澤大学禅文化歴史博物館は、本学の特色を活かした禅（仏教・宗教）の文化、歴史を中心とする博物館とし、一般公開することにより、地域社会のみならず、広く世界へ向けて大学の情報を発信する基地としての役割を担っています。

また、学芸員資格取得希望者を抱える本学博物館学講座に協力し、講座・実習の充実を図り、本学の特色を活かした優秀な学芸員を社会に送り出すための教育研究を実践しています。

2024年度の展示・催事

- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| (2024. 3/23~4/8) | 特別公開「大涅槃図」 |
| (2024. 3/23~4/8) | 春季特別公開「正法眼蔵嗣書」・花まつり |
| (2024. 6/10~7/30) | 企画展「『源氏物語』注釈書に見る享受のあゆみ」 |
| (2024. 7/1~7/30) | 禅林歳時記「精霊棚（お盆飾り）」 |
| (2024. 7/4~7/5) | ふれあい七夕まつり2024開催&オンラインで願い事募集 |
| (2024. 7/20~8/22) | 夏休み特別企画「学芸員とめぐる『禅の世界』」（全10回・5日） |
| (2024. 9/30~11/22) | 企画展「瑩山禅師一曹洞宗 もう一人の祖師一」 |
| (2024. 9/30~2025. 3/21) | 大学史特集展28「總持寺の近代と駒澤大学」 |
| (2024. 10/1~10/31) | 禅林歳時記「達磨忌」 |
| (2024. 11/1) | 第16回ふれあい禅寺めぐり「大本山総持寺の拝観と精進料理」 |
| (2024. 11/2~11/16) | 秋季特別公開道元禅師真筆『正法眼蔵嗣書』 |
| (2024. 11/5~11/7) | 「教育・文化週間」オリジナルクリアファイル配付 |
| (2024. 12/2~12/21) | 第18回駒澤大学博物館講座企画展「達磨とだるまさん」 |
| (2024. 12/4~12/16) | 特別公開「出山釈迦図」 |
| (2024. 12/6) | 第39回禅博実践セミナー「臘八坐禅」 |
| (2024. 12/16~2025. 3/31) | わくわくぜんぱく探検ジャー！2024 |
| (2025. 1/8~1/31) | 禅林歳時記「禅寺の正月」 |
| (2025. 1/30~1/31) | 『正法眼蔵辨註』版木保存作業 |
| (2025. 2/15~2/28) | 特別公開「大涅槃図」 |
| (2025. 2/15) | 第44回禅博セミナー |

「太田治兵衛と本学大涅槃図が紡いだ250年の物語」

永平寺×駒澤大学禅文化歴史博物館共催 WEB展示「[道元禅師と永平寺展](#)」

禅文化歴史博物館の活動の詳細は以下のホームページ・SNS等をご参照ください。

公式ホームページ：[禅文化歴史博物館](#)

Google Arts & Culture：[駒澤大学禅文化歴史博物館（日本語版）](#)

公式YouTube：[禅博チャンネル](#)

公式X（旧Twitter）：[@zenpaku2002](#)

公式インスタグラム：[ZENスタグラム](#)

関連するSDGs



4 質の高い教育を
みんなに

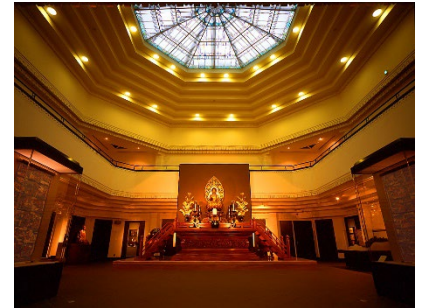


駒澤大学禅文化歴史博物館が「登録博物館」に認定

禅文化歴史博物館

駒澤大学禅文化歴史博物館は駒澤大学開校120周年記念事業の一環として平成14年6月に開館したのち、平成18年11月より「博物館相当施設（改正法では博物館指定施設）」の指定を受けております。

この度、令和6年9月11日付で「登録博物館」として認定されました。都内の大学博物館では2校目の認定となります。



参照：[駒澤大学禅文化歴史博物館が博物館法で規定する「登録博物館」になりました](#)

関連するSDGs



4 質の高い教育を
みんなに



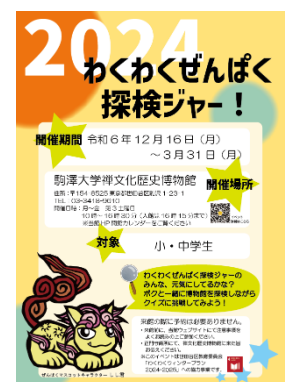
わくわくぜんぱく探検ジャー！

世田谷区教育委員会の事業に協力しています

禅文化歴史博物館

「[わくわくぜんぱく探検ジャー！](#)」は、世田谷区教育委員会「わくわくウィンタープラン2024-2025」への協力事業として、小学生・中学生を対象に開催しています。

本イベントは、2024年12月16日（月）から2025年3月31日（月）を開催期間としており、禅文化歴史博物館マスコット「しし君」と一緒に館内を探検しながらクイズに挑戦し、楽しみながら禅や仏教について学ぶことができます。



関連するSDGs





学校法人駒澤大学フェローによる講演会・トークイベント

総務部

学校法人駒澤大学では、広く一般の方に高い教養の学びの場を提供し、社会に資するため、学校法人駒澤大学フェロー制度により任命されたフェローによる講演会・トークイベントを実施しています。今年度は、元財務省関東財務局長の古谷 雅彦フェローによる、教育・学術等に関わる講演会を2回開催。また2024年4月に駒澤大学陸上競技部総監督である大八木弘明氏を新たにフェローに任命し、人の育成をテーマとしたトークイベントを開催しました。

<学校法人駒澤大学フェロー講演>

【第5回】「世界の中の日本」

日時：2024年4月20日（土）
10：40～12：10
会場：駒沢キャンパス 中央講堂
講師：古谷 雅彦 氏
（学校法人駒澤大学フェロー）



【第6回】「この国のこれから」

日時：2024年9月28日（土）
10：40～12：10
会場：駒沢キャンパス 図書館 101教場
講師：古谷 雅彦 氏
（学校法人駒澤大学フェロー）



<学校法人駒澤大学フェロートークイベント2024>

「人を育てる、夢を叶える」

日時：2024年10月26日（土）
10：40～12：10
会場：駒沢キャンパス 記念講堂
登壇者：大八木 弘明 氏（学校法人駒澤大学フェロー）
ゲスト：早瀬 浩二 氏
（第一生命グループ女子陸上競技部監督・
元駒澤大学陸上競技部主将）
MC：加藤 響子 氏（フリーアナウンサー）



関連するSDGs

8 働きがいも
経済成長も





ロスで教える未来のかたち3.0

ロスフラワーを活用した障がいを持つ子ども達の社会進出支援

経済学部

松田健ゼミナール

特別支援学級の生徒たちが「社会の仕組み」にふれることで、進学・就職という選択肢を持ってもらい、障がいにとらわれない明るい未来をイメージできるように支援したい。そうした基底的意識のもとで本研究は行われています。代表的なロス問題と花がもたらす効果とに着目し、廃棄寸前の花を入手し、活用することでフラワーロス問題の改善に寄与するとともに、このロスフラワーを利用して、障がいを持っている子どもたちに商品を作り、販売するビジネスの楽しさを知ってもらう体験を提供しました。一昨年度の「ロスで教える未来のかたち1.0」では、特別支援学級の生徒に向けたロスフラワーを活用するアクティブラーニングを通じて、イノベティブな協働を生み出し、支援に繋がりました。すなわち、フラワーロス問題と障害を持った子ども達の社会進出支援問題との2つを掛け合わせ、これらからイノベティブな協働を生み出すことを目標として効果的な就労支援の不足を特別支援学級での4Pに基づいた学習とロスフラワーを使った商品の製作・販売とを通じて、障がいを持つ子供たちの社会進出に対する意識の向上を目指すものでした。この点は、昨年度の弦巻中学校での実施内容にも反映されています。

昨年度の「ロスで教える未来のかたち2.0」では、障がいを持つ子どもたちが「社会のしくみ」に能動的に触れることで人に喜んでもらう経験をし、就職意識の不足を改善することで障害に囚われない自由な未来を持ってもらうことを目指しました。そのため、廃棄前の花を有効活用し、フラワーロスの現状を改善すると同時に、特別支援学級での共同作業とロスの有効活用とを掛け合わせて社会問題に対して新たな視点からアプローチしました。加えて、特別支援学級での4Pに基づいた学習とロスフラワーを使った商品の製作（ポップリ）及びその販売を実施しました。

過去2年の知見を踏まえ、今年度のプログラムである「ロスで教える未来のかたち3.0」では1.0及び2.0にて挙げられた課題に対するTry&Errorを繰り返しつつ新たな検証と改善とを試みしました。一昨年度実施したプロジェクトでは、昨年度の問題点としては、長時間集中することが難しく理解度に個人差があること、この活動の目的が子供たちに伝わっていなかったことへの対応が十分にはできなかったことが挙げられました。これらの課題点の解決とともに、「作品」と「商品」との違いをどのようにして子ども達に伝えるかが今年度の私たちの課題となりました。

ここまでの研究と実践とを通じて、「ロスで教える未来のかたち1.0」からの目的であるフラワーロス問題と特別支援学級の生徒たちの就労意識の不足改善を一定程度「進歩」させることができたと思われれます。ロス問題は今後も深刻化していく極めて重要な社会問題である。他方で、特別支援学級の生徒の就労支援がまだまだ不足していることは多くの人々に認知してもらう必要があるからこそ、これらの問題を解決するための基盤として私たちの3年間の活動を通して得られたシステムは一定の有効性を持つものと評価しています。

この取り組みは「日本学生経済ゼミナール関東部会大会（インナー大会）」のプレゼン部門（121チームがエントリー）で研究発表として報告しました。その中でブロック優勝して本選に進み、入賞という成果を得ました。

関連するSDGs





ロスで教える未来のかたち3.0

ロスフラワーを活用した障がいを持つ子ども達の社会進出支援

経済学部

松田健ゼミナール

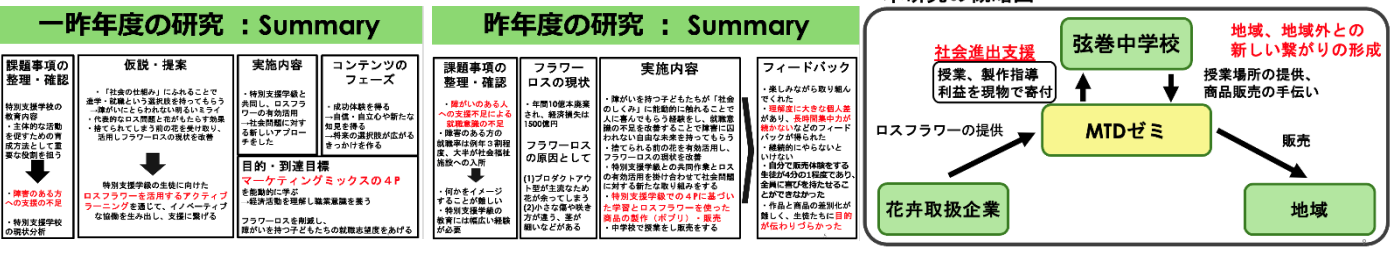
過去2年のプログラムの実施上生じた授業の中で出た課題の解決策として、活動に参加したゼミ生の人数を活かし、班ごとにゼミ生が担当につき、ひとつの工程が進むごとに説明を加えて理解度に差がでないよう、進捗状況を合わせた工夫を施しました。また、授業にクイズ形式を取り入れることで商品を作る前の座学の段階でも楽しく授業を受けてもらい4Pを理解してもらおう工夫もしました。クイズの内容とともに、これを繰り返し行うことにより、飽きが来ないような工夫と目的をより深く理解してもらおう工夫とが含まれています。社会的包摂の確立のためには、私たち自身が当事者意識をもって課題に向き合い行動していく必要があるとの理解に至りました。

今年度は9月3日ならびに6日に世田谷区立弦巻中学校にてフラワーロス問題と商品の製作・販売の授業を行いました。昨年度行ったポプリのみの製作では、生徒たちにもものづくりの楽しさを実感してもらうことが難しいと感じ、ポプリのみの製作から、バスボムとハーバリウムとの2種類に商品を増やしました。また、生徒たちにもものづくりの楽しさを実感してもらうために、商品とは別に、自己を表現できる美術作品としてのポプリの製作も行いました。授業に対するフィードバックに依れば、生徒たちは商品と作品との違いを認識でき、消費者を意識しながら製作していたことが垣間見える。授業で製作した商品は、「無印良品」三軒茶屋店のフリースペースにて9月26日に販売された。売れ行きは上々でした。さらに、11月12日に2回目の商品製作を行い、11月24日に地域福祉推進大会でも生徒と共に販売を行いました。

昨年度はロスフラワーに加えて、商品製作に足りない分をリサイクルフラワーとして再価値化されたものを一部購入したが、今年度はこれまでの活動に対する共感を多く集めたこともあり、より多くの団体からロスフラワーの提供を受けたため、100%ロスフラワーを使った商品作りができたことも進化した部分であると認識しています。

残念なことに、私たちの意識下では障がいを持った人たちの存在を遠く感じるままあります。しかし、私たちの誰もが「障がいを持った人」になり得ることから、この問題は私たちとは切っても切り離せないものです。彼らに寄り添いつつ、ともに問題を解決に導くためには、「私たちが当事者意識を持つことが最低限必要なのではないのだろうか。誰もが関係する可能性がある深刻な社会問題であるからこそ、机上の空論で終わらせず、これへの不断の取り組みが求められる。それこそが社会問題への最善のアプローチであろう。」という結論にこの取り組みに参加したすべてのゼミ生が到達したことは、大きな成果であると思われま

本研究の概略図



関連するSDGs





駒澤大学公開講座

学術研究推進部

社会連携課(社会連携センター)

駒澤大学では、大学における研究と教育の成果を広く社会に還元し、教養と文化の向上に寄与することを目的として、公開講座を開講しています。

前期公開講座

対面講座

4月13日(土) 【[仏像鑑賞の極意 - 仏像の謎を解く -](#)】

講師：村松 哲文 (仏教学部 禅学科 教授)

5月18日(土) 【[江戸時代の実用書 - 犬のペット本を読む -](#)】

講師：近衛 典子 (文学部 国文学科 教授)

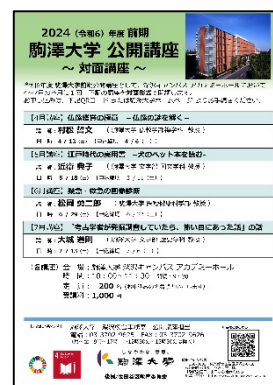
6月29日(土) 【[緊急・救急の画像診断](#)】

講師：松岡 勇二郎

(医療健康科学部 診療放射線技術科学科 教授)

7月13日(土) 【[『考古学者が発掘調査していたら、怖い目にあった話』の話](#)】

講師：大城 道則 (文学部 歴史学科 教授)



オンデマンド配信講座

4月講座 【[供養の日本史](#)】

講師：徳野 崇行 (仏教学部 仏教学科 准教授)

5月講座 【[データサイエンス入門講座 統計とデータ分析の基礎](#)】

講師：本多 賢 (東京国際工科専門職大学 助手)

6月講座 【[デジタル化する金融と証券市場
~フィンテックからブロックチェーンまで~](#)】

講師：代田 純 (経済学部 商学科 教授)

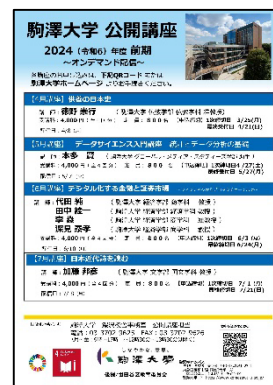
田中 綾一 (経済学部 経済学科 教授)

李 焱 (経済学部 商学科 准教授)

深見 泰孝 (経済学部 商学科 教授)

7月講座 【[日本近代詩を読む](#)】

講師：加藤 邦彦 (文学部 国文学科 教授)



関連するSDGs





後期公開講座

対面講座

10月26日(土) **【[瑩山禅師の生涯と思想 – 曹洞宗教団の礎を作った祖師 –](#)】**

講師：佐藤 秀孝 (駒澤大学 名誉教授)

11月2日(土) **【[禅のことばとお茶](#)】**

講師：小川 隆

(駒澤大学 禅研究所 所長・総合教育研究部外国語第二部門 教授)

12月7日(土) **【[目に見えない放射線とこころ](#)**

– 学部を超えた風評被害対策へのチャレンジャー –

講師：新井 知大 (医療健康科学部 診療放射線技術科学科 准教授)

上島 奈菜子 (文学部 心理学科 講師)

1月25日(土) **【[1行から広がるカフカ的世界](#)】**

講師：下園 りさ

(総合教育研究部 外国語第二部門 准教授)

オンデマンド配信講座

10月講座 **【[瑩山禅師の生涯と思想 – 曹洞宗教団の礎を作った祖師 –](#)】**

講師：横山 龍顯 (仏教学部 禅学科 講師)

11月講座 **【[株式会社の特徴](#)】**

講師：三浦 康平 (法学部 法律学科 准教授)

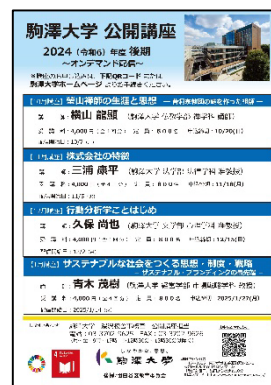
12月講座 **【[行動分析学とはじめ](#)】**

講師：久保 尚也 (文学部 心理学科 准教授)

1月講座 **【[サステナブルな社会をつくる思想・制度・戦略](#)**

– サステナブル・ブランディングの最先端 –

講師：青木 茂樹 (経営学部 市場戦略学科 教授)



関連するSDGs



4 質の高い教育を
みんなに



「坐禅体験」開催

仏教学部の教員が坐禅の指導を行いました

仏教学部

館 隆志 ・ 横山 龍顯

10月3日（木）及び12日（土）、公益財団法人世田谷区保健センターにて「[坐禅体験](#)」が開催され、仏教学部の館隆志准教授と横山龍顯講師が坐禅の指導を行いました。

この講座は世田谷区保健センターが健康増進事業の一環として主催するもので、坐禅の教えや作法の説明と坐禅体験を実施しました。各日、多くの方にご参加いただきました。



関連するSDGs



4 質の高い教育を
みんなに



夏休みこどもアカデミー2024

「親子deストレッチ」を開催しました

学術研究推進部

社会連携課(社会連携センター)

7月30日（火）、駒沢キャンパスにおいて「[夏休みこどもアカデミー2024](#)」（無料プログラム）として、小学生とその保護者の方を対象とした「親子deストレッチ」を開催しました。

末次美樹総合教育研究部スポーツ・健康科学部門教授が講師となり、自宅でも簡単にできるストレッチやリラクスの方法を紹介しました。受講者は、親子で楽しみながらストレッチを体験することができ、自分や家族のからだの状態について考える機会となりました。

会場では、ベジチェック®（推定野菜摂取量測定）の体験も同時開催されました。



関連するSDGs





令和6年度ダイバーシティ研修会 開催

テーマ：「聴覚障がいと聴覚障がいに対する合理的配慮」

ダイバーシティ推進ワーキンググループ

意識啓発・研修グループ
研修・イベントチーム

駒澤大学ダイバーシティ推進事業の一環として、ダイバーシティ推進ワーキンググループ 意識啓発・研修グループが主催し、学生支援センター（学生相談室）の協力を得て、「聴覚障がいと聴覚障がいに対する合理的配慮」をテーマに令和6年度ダイバーシティ研修会を実施しました。

学生の支援の実例に基づき、授業における合理的配慮の課題を共有しすべての学生が分け隔てなく学ぶことのできる修学環境を整えることを目的として、各学部等の単位で開催しました。

テーマ：聴覚障がいと聴覚障がいに対する合理的配慮

概要：聴覚障害のある学生への支援実例を基に、「合理的配慮とは何か」、「大学生活上の困難さに対する合理的配慮」、「学習上の困難さに対する合理的配慮」、「駒澤大学が行っている合理的配慮」について共有し、「大学授業等の情報保障における具体的な課題」を確認する。

講師：学生支援センター（学生相談室）カウンセラー／障がい学生支援コーディネーター

対象：専任教員（総合教育研究部 外国語部門では非常勤講師も対象）

協力：障がい学生支援委員会・学生支援センター（学生相談室）

実施日：2024年10月17日（木）文学部

2024年11月15日（金）法学部

2024年12月 7日（土）総合教育研究部 外国語部門

2025年 2月13日（木）仏教学部

2025年 2月13日（木）経済学部

関連するSDGs



5 ジェンダー平等を
実現しよう



駒澤大学ダイバーシティ推進室 設置

ダイバーシティ推進室

関連するSDGs



5 ジェンダー平等を
実現しよう



駒澤大学ダイバーシティ推進委員会 発足

ダイバーシティ推進室

関連するSDGs



駒澤大学は、駒澤大学ダイバーシティ推進に関する基本方針に則り、包括的で多様性を尊重する社会を築く新たな一歩を踏み出すため、2024年4月よりダイバーシティ推進室を設置いたしました。

ダイバーシティ推進室は、自己の確立とともに、多様な他者への思いやりを忘れず、助け合う心を育み、共生社会の実現に資する人材を育成することを目指して、ジェンダー、セクシュアリティ、年齢、国籍、エスニシティ、文化、宗教、思想、信条、障がい等、多様な背景を持つ学生・教職員が互いを理解し尊重しあうことのできる、より魅力あるキャンパスの実現に向けて取り組みます。駒澤大学は、これからも進化し続け、すべてのメンバーが誇りを持ち、共に成長する場であることを目指して前進します。

ダイバーシティ&インクルージョンの取り組みを恒久的に推進していくため、令和6年度より、ダイバーシティ推進委員会を設置しました。

本委員会は、ダイバーシティ推進に係る学内の課題や問題点を共有し、解決方法について協議します。学生及び教職員のダイバーシティを尊重し、個を活かした柔軟な大学の実現を目指して取り組みを続けていきます。

5 ジェンダー平等を
実現しよう



駒澤大学ダイバーシティ推進ワーキンググループ 発足

ダイバーシティ推進委員会

駒澤大学ダイバーシティ推進委員会は、ダイバーシティ推進に係る計画の立案及び実行のために、組織横断的なワーキンググループを設置しました。松信ひろみダイバーシティ推進担当学長補佐を座長とし、24名の構成員を2グループ・5チームに分け、教職員協働でダイバーシティ推進事業に取り組んでいます。

- ①意識啓発・研修
 - a. 研修・イベントチーム
 - b. ポスター・リーフレットチーム
- ②制度・政策・設備
 - a. 新規事業検討チーム
 - b. キャリア支援検討チーム
 - c. 制度・政策・設備検討チーム

関連するSDGs



5 ジェンダー平等を
実現しよう



コミュニティ・スペース 開催

テーマ:「ダイバーシティについて思うこと」

ダイバーシティ推進ワーキンググループ

制度・政策・設備グループ
新規事業検討チーム

駒澤大学ダイバーシティ推進事業の一環として、11月28日(木)にダイバーシティ推進ワーキンググループ 意識啓発・研修グループ 新規事業検討チームが主催し「コミュニティ・スペース」を開催しました。本件は対象を学生・教職員とし、事前にグラドルールを設定した上で、テーマを「ダイバーシティについて思うこと」として催されました。当日は在校生・教職員の参加があり、和やかな雰囲気の中、ダイバーシティについての意見交換がなされました。



関連するSDGs





令和6年度ダイバーシティ啓発ポスターコンテスト 実施

ダイバーシティ推進ワーキンググループ

意識啓発・研修グループ
ポスター・リーフレットチーム

駒澤大学ダイバーシティ推進事業の一環として、ダイバーシティ推進ワーキンググループの意識啓発・研修グループ ポスター・リーフレットチームが主催し、「ダイバーシティ啓発ポスターコンテスト」を実施しました。

7月18日(木)～10月31日(木)にWebを通じ在学生からの作品を募り、事務局での1次審査、11月18日(月)～11月30日(土)の学生による2次審査を経て、3作品が入賞しました。これらの作品は、キャンパス内に掲示され、大学全体でダイバーシティ意識を高めていく上で重要な役割を担います。



参照：[「令和6年度ダイバーシティ啓発ポスターコンテスト入賞作品」](#)が選ばれました

[「令和6年度ダイバーシティ啓発ポスターコンテスト」](#)の表彰を行いました

関連するSDGs





「働くことの意義とキャリア形成について」

駒澤大学ダイバーシティ推進事業の一環としてセミナー開催

ダイバーシティ推進ワーキンググループ

制度・政策・設備グループ
キャリア支援チーム

駒澤大学ダイバーシティ推進事業の一環として11月22日（金）に、ダイバーシティ推進ワーキンググループの制度・政策・設備グループ キャリア支援チーム主催の**出前講座プログラム「働くことの意義とキャリア形成」**を開催しました。

この講座は、令和6年度厚生労働省委託事業「民間企業における女性活躍促進事業」における取り組みのひとつとして実施しています。講師として労働政策研究研修機構研究員の 田上 皓司氏により、働くことの意義や将来のキャリアプランの考え方、誰もが活躍できる企業の探し方に関する講演が行われました。

講座へは女子学生のみならず男子学生の参加もあり、個人ワークや講師への質疑応答を通じて、大学卒業後の進路選択にあたり、将来どのような仕事がしたいか、どのように生活していきたいのかなど、自分なりのキャリアを考える機会となりました。



関連するSDGs





「生理を理解しようとするセミナー・生理痛VR体験会」

学生支援センター

学生支援推進課 学生支援推進係

11月11日（月）に駒沢キャンパス種月館（3号館）にて、教職員を対象とした「[生理を理解しようとするセミナー・生理痛VR体験会](#)」を開催しました。

本学の学校医である松本純子医師が、データや調査結果を用いて、月経周期、ホルモン変化、病気、対処方法、機会損失、社会状況などについて医療従事者の視点から詳しく説明しました。

また、大阪ヒートクール株式会社の協力を得て、生理痛VR体験デバイス「ピリオノイド」を使用した体験会も実施され、学生や教職員54人が生理痛を擬似体験しました。



本学は2021年度から生理用品の支援を継続しており、企業の協力を得て生理用ナプキンの無料配布や、学内トイレへの無料ディスペンサー「0iTr（オイテル）」の設置を行ってきました。

これらの支援を通じて、経済的困窮だけでなく「周囲からの無理解」といった課題解決にも取り組んでいます。2023年度からは生理に関するセミナーを継続的に開催し、今年は7月にPMS（月経前症候群）に特化したセミナーを実施しました。今回のセミナーはその続編です。

イベントは満員となり、家族やパートナー、同性・異性の理解や、働く女性が能力を最大限発揮する事のできる職場環境づくりのためなど、生理について意欲的に理解する姿が多く見られました。性差や個人差に関わらず、ジェンダー平等の実現を目指す前向きな機会となりました。



共催：ダイバーシティ推進ワーキンググループ

関連するSDGs



5 ジェンダー平等を
実現しよう



東京レインボープライド2024

文学部社会学科の松信ひろみゼミがボランティア参加しました

文学部

松信ひろみゼミナール

4月20日（土）・21日（日）に代々木公園イベント広場で開催された「東京レインボープライド2024」に、文学部社会学科の松信ひろみゼミがボランティアとして参加しました。

総合受付、物販、パレードなどのお手伝いの他、世田谷区男女共同参画センター（らぷらす）のブースでも、世田谷区の男女共同参画の取り組みや世田谷区パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度についてチラシ配布などのお手伝いをしました。



関連するSDGs



5 ジェンダー平等を
実現しよう



LGBTQ+についての出前講座

文学部社会学科の松信ひろみゼミ有志が講座を開催しました

文学部

松信ひろみゼミナール

9月26日（金）、文学部社会学科の松信ひろみゼミの4年生有志が世田谷区内の小学校でLGBTQ+についての出前講座を行いました。

この講座は、世田谷区立男女共同参画センター（らぷらす）のご協力のもとに実施したもので、3年次のゼミ活動として行ったLGBTQ+当事者の方へのインタビュー調査に基づいて講座の資料を作成しました。

授業は6年生の2クラスそれぞれの教室で2回に渡り行われ、児童の皆さんは真剣に話に聞き入りました。鋭い質問も投げかけられ、1時間の授業時間では足りないほどの充実した講座となりました。



関連するSDGs





2024(令和6)年度 駒澤大学省エネルギーへの取り組み	
管財部	

2024(令和6)年度 駒澤大学省エネルギーへの取り組み

駒澤大学では、国および東京都より省エネルギーの継続的な取り組みを求められています。省エネルギー企画推進委員会で承認された省エネルギー対策に大学全体で取り組んでおります。

1. 2024(令和6)年度 今夏の省エネルギー対策

目的	「数値目標を伴わない省エネ」に取り組む。
期間	6月1日(土)～9月30日(月)の平日
時間	9時～20時

2. 2024(令和6)年度 今冬の省エネルギー対策

目的	「数値目標を伴わない省エネ」に取り組む。
期間	11月1日(金)～4月30日(水)の平日
時間	9時～20時

3. 通年実施の省エネルギー対策

1年を通して省エネルギー対策を継続的に実施し、個々人の意識的な参加が必要な取り組みについて、大学全体に共有することで教職員・学生に理解を促す。



関連するSDGs





教職員を対象とした「車椅子体験会」

キャンパス内に移動の妨げがないか体験しました

学生支援センター

学生支援推進課・学生支援相談課

学生支援センターは、従来の「厚生補導」の対象にならない学生たちも広く支援対象として、学内横断的な学生支援を立案・実行しています。2024年3月14日（木）、駒沢キャンパスで**教職員を対象とした「車椅子体験会」**を実施しました。

このイベントは、2024年4月1日から事業者による障がいのある方への「合理的配慮の提供」が義務化されることを受けて、実際に車椅子に乗り、キャンパス内のどこに移動の妨げがあるか体験する取り組みです。参加した教職員は、3センチほどの小さな段差でも乗り越えるのが難しく、緩やかな傾斜の登り降りも操作に不慣れな場合には補助が必要なことを痛感しました。

この体験から、施設を支障なく利用できるように環境を整備する必要性や、多様な背景を持つ人々に対して必要に応じて手を差し伸べることの重要性を学びました。



参照：[駒沢キャンパスバリアフリーマップ](#)

関連するSDGs





学生サポートワークショップ

車いす体験会・聴覚障がい体験会を実施しました

学生支援センター

学生支援推進課・学生支援相談課

「学生対応の質向上」を目的とする「学生サポートワークショップ」として、2024年12月には車いす体験会・聴覚障がい体験会を開催しました。主たる対象は教職員でしたが、学生の参加も可能とし、延べ40名近くが参加しました。

このワークショップでは、本学の障がい学生支援コーディネーターによる詳細説明と障がいの疑似体験を同時に行うことで、障がい学生の学生生活や大学の合理的配慮を考える機会を提供することができました。

①車椅子体験会

日時：2024年12月11日（水）・13日（金）

場所：駒沢キャンパス内

共催：ダイバーシティ推進ワーキンググループ

講師：坂田 侑奈 氏（障がい学生支援コーディネーター）

車椅子貸与協力：社会福祉学専攻・教職課程部門・禅文化歴史博物館

参加者数：16名（教職員14名 学生2名）

②聴覚障がい体験会

日時：2024年12月18日（水）・20日（金）

場所：駒沢キャンパス種月館（3号館）教場

共催：ダイバーシティ推進ワーキンググループ

講師：坂田 侑奈 氏（障がい学生支援コーディネーター）

参加者数：17名（教職員13名 学生4名）



関連するSDGs





法学部内海麻利ゼミナールが世田谷地域「地域交流ラボ」に継続参加

「防災コミュニティラボ」を主宰し、地域活性化に貢献しています

法学部

内海麻利ゼミナール

法学部の内海麻利ゼミナールは、世田谷地域「地域交流ラボ」に2023年度、2024年度と継続的に参加し、防災についての研究を深め、進化系防災訓練「防災コミュニティラボ」を開催する等、地域防災、地域活性化に貢献しています。

2024年2月12日（月）、駒沢キャンパス種月館（3号館）種月ホールにて、「令和5年度世田谷地域『地域交流ラボ』成果発表会 オープンカンファレンス」が行われました。

世田谷総合支所地域振興課では「地域活性化事業」の一環として、世田谷地域「地域交流ラボ」を実施しています。2023年度は「まちづくり」をテーマに世田谷地域内の5つの大学の学生が活動しており、1年間の成果報告が行われました。

本学からは法学部の内海麻利ゼミナールに所属する防災アンケートチームが「防災意識とその実態-防災情報・防災訓練・防災準備に着目して」、防災イベントチームが「『防災コミュニティラボ』のプロセスと実装」というテーマで発表を行いました。



2023年度に行った研究及び「防災コミュニティラボ」の成果は、2024年度に活かされ、一層充実した活動を進めることとなりました。

これまでに得られた研究成果をフィードバックして、「防災コミュニティラボ」の内容を再検討し、2024年10月12日（土）に、駒沢小学校の5年生とともにデモイベントを行いました。

さらに、デモイベントで得た経験を活かし、ブラッシュアップして、2024年12月7日（土）、2回目となる進化系防災訓練「防災コミュニティラボ」を開催し、多くの方に参加していただきました。

当日は、駒沢小学校体育館を会場に、実技競技として、「消火活動バケツリレー」、「負傷者搬送障害物リレー」、「応急処置競技」、その他の催物として、「非常食試食会」、「防災知識クイズ」、「一緒に工作防災グッズ」を行い、好評を得ました。

2024年度も、2025年2月11日（火・祝）に、「令和6年度世田谷地域『地域交流ラボ』成果発表会 オープンカンファレンス」が開催され、内海麻利ゼミナールが参加しました。



関連するSDGs





体験型防災イベント「駒大防災ハロウィン」

学生支援センター

学生支援推進課 学生支援推進係

10月29日（火）～31日（木）の期間、駒沢キャンパスで体験型防災イベント「[駒大防災ハロウィン](#)」を開催しました。

このイベントは、参加者の防災意識を高めることを目的としています。今年度は、昨年度の「駒大防災庫バックヤードツアー&防災体験」の成功を受けて、さらに内容を充実させました。学生や教職員だけでなく、地域住民の方々にも広く参加いただき、普段は非公開の大学防災庫のツアーや防災に関する体験を提供しました。

今回は企業や自治体の協力のもと、「駒大防災庫バックヤードツアー」、「防災パン 焼成実演&みんなで試食 Presented By ニッポン」、「防災体験 Presented By 世田谷区」、「駒大ぼうさい巡り Presented By 能美防災」の4つのアトラクションを用意しました。

参加人数は各アトラクション延べ1900人を超え、学生や教職員、地域住民の方々を含む多くの方々にご参加いただきました。

「学内で災害が発生した場合、どのように動くべきか想像することができた」「消火器の使用方法を体験できたのがよかった」、「煙中避難訓練では、煙の中だと短い距離でも先が見えず、少しでも視界を確保するためには苦しい体勢まで屈まなければならなかったので、緊急時に焦らないようにしたい」、「起震車では見ているよりも体験した方が揺れが強いと感じ、すごく怖かった。身動きが取れなかったため、実際に地震があった際は落ち着いて対応できるように心がけたい」といった感想が寄せられ、防災意識を高める有意義な機会となりました。





「上馬クリーンキャンペーン」に参加

学生有志・職員が世田谷区上馬地域の清掃活動を実施しました

総務部

6月19日（水）、「[上馬クリーンキャンペーン](#)」が行われ、オータムフェスティバル実行委員会及び任意団体サークルの「ECO・環境保護サークル Green Grow」の学生、職員が参加しました。

当日は朝7時40分に大学に集合し、世田谷区の上馬地区の清掃活動を実施しました。参加者は周辺地域の美化活動に取り組むとともに、清掃活動に参加した地域の方々との交流を深めました。



関連するSDGs



地域環境クリーン活動

職員有志が本学周辺の美化活動に取り組みました

総務部

10月11日（金）、職員の有志数人で[地域のクリーン活動](#)を実施しました。朝9時30分から30分程度、学生・教職員が普段利用している国道246号沿いの歩道や本学周辺の美化活動に取り組みました。

本学では、今回の取り組みのほかにも、地域で開催される「上馬クリーンキャンペーン」に参加するなど、定期的に地域のクリーン活動を行っています。



関連するSDGs

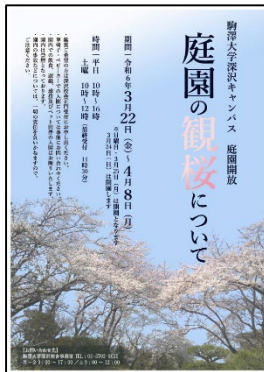




深沢キャンパス「日本庭園」の一般開放

深沢校舎事務室

駒澤大学深沢キャンパスは2006（平成18）年に建設され、大学院の講義室や各研究室、公開講座などに利用できるホールが設置されています。キャンパス内には、昭和を代表する建築家である吉田五十八氏が設計した旧三越迎賓館（1972年完成）が現存するほか、和室を備えた日本館と、その周囲には日本庭園や茶室「而今庵」があります。[春（3月22日～4月8日）](#)と[秋（11月22日～12月6日）](#)に日本庭園を一般開放し、地域の皆様に四季折々の表情をお楽しみいただきました。





駒澤大学駐輪場竣工

旧図書館の地下部を活用することで環境に優しい建物としています

管財部

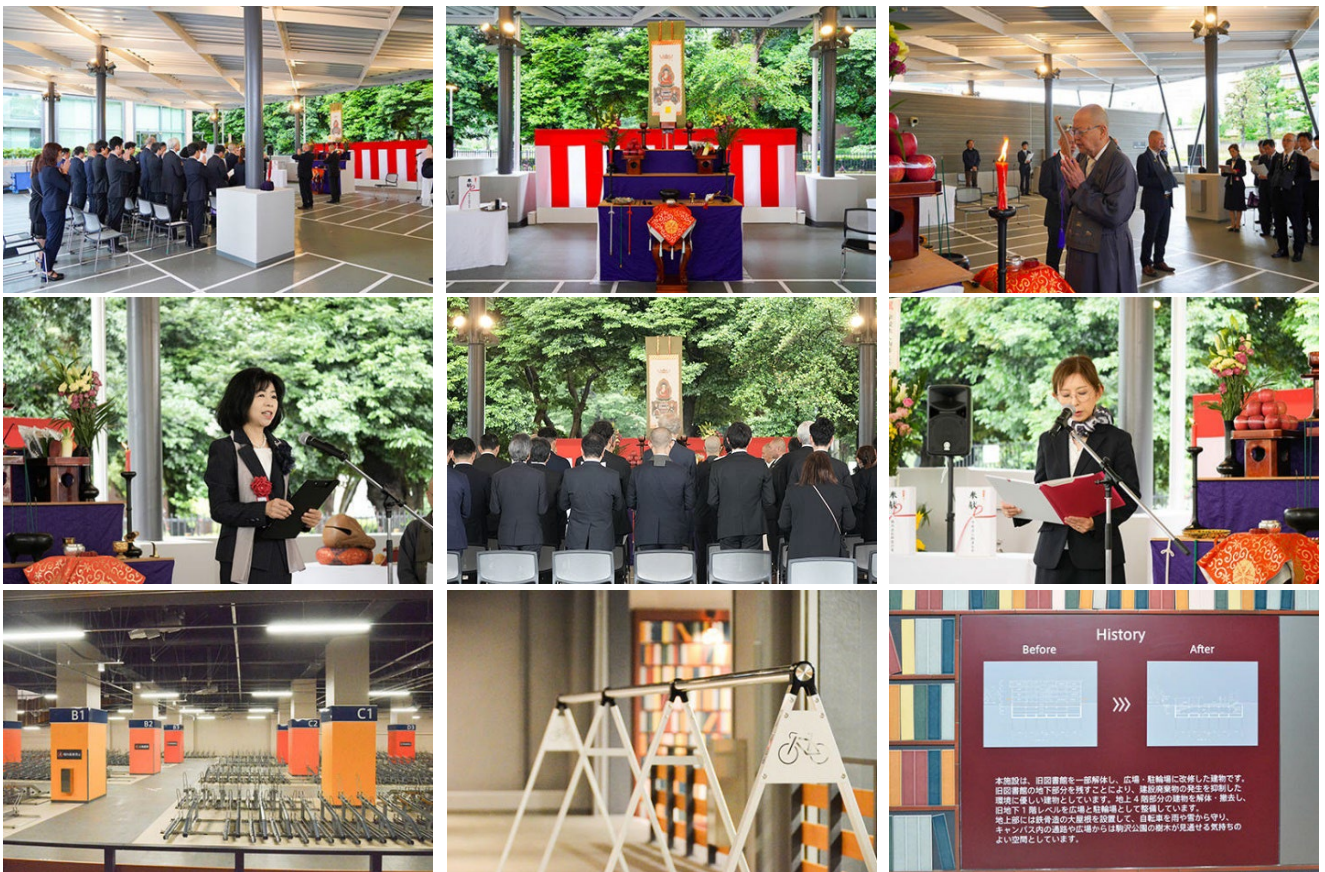
駒澤大学駒沢キャンパス内の駐輪場が竣工し、5月31日（金）に**完成式**を執り行いました。

完成した駐輪場は、2022年の閉館後、解体された旧図書館の跡地に建設されました。駐輪台数は約1,100台となり、地下部は旧図書館の地下を改修して利用しています。旧図書館の地下部分を残すことにより、建設廃棄物の発生を抑制した環境に優しい建物となりました。

地上部には屋根付きの駐輪場とパラソル、ベンチなどの什器を配した広場が設けられ、駒澤大学図書館とのつながりを持つ開放的な空間となっています。

地下駐輪場は旧図書館の地下部を活用した空間で、消防・換気設備といった設備に加え、監視カメラ、通話ができる非常インターホンや非常ベルを備え、安全面にも配慮しています。

さらに、これまでの駐輪場エリア（守衛所裏）は、外構整備を実施し、新たな駐車場として一般車両から大型バスまで駐車することが可能となりました。それにより、キャンパス内の歩車分離が確立され、学生・教職員等の安全な構内動線を確保しました。



関連するSDGs





駒澤大学古本募金

不要となった書籍等を寄付に

募金事務室

駒澤大学では、2018（平成30）年度より「駒澤大学古本募金」を開始し、皆さまからご不要となった書籍（CD・DVDを含む）をご提供いただき、その買取金額が駒澤大学への寄付となり図書館資料の充実に役立てられる取り組みを実施しています。

これらの取り組みは、以下の方法で行っています。

【WEBサイトからのお申込み】

ご不要となった書籍等（CD・DVDを含む）を段ボール箱に詰め、WEBサイトからお申込みください。ご指定の時間にご自宅まで宅配業者が伺います。

取り扱い対象商品5点以上であれば送料は無料です。（5点未満の場合、1箱につき500円が査定額より差し引かれます。）

【学内回収ボックスのご利用】

ご不要となった書籍等（CD・DVDを含む）を学内に設置した回収ボックスにそのまま入れてください。

お申込み手続きは不要です。回収ボックスをご利用の場合、ご提供いただいた書籍等は駒澤大学からまとめて集荷を申し込むため、個別の査定結果の報告及び領収証の発行には対応できません。

＝学内回収ボックス設置場所＝

- ◆第一研究館 2階 受付検収窓口前
- ◆第二研究館 1階 受付検収窓口前
- ◆講師控室内
- ◆種月館（3号館）4階 情報グループ学習室「PAO」前
- ◆本部棟1階 財務部掲示板前

2024年度4月～11月実績

買取冊数 2,575冊

寄付金額 611,182円

駒澤大学古本募金

不要となった書籍等（CD・DVDを含む）をご提供いただき、その買取金額が本学への寄付となって、図書館資料の充実に役立てられる取り組みです。
ISBNコードおよびバーコードがついている書籍、背表紙などに規格番号のついたCDやDVD、ゲームなどが対象となります。

学内回収ボックス設置場所

- ◆第一研究館 2階 受付検収窓口前
- ◆第二研究館 1階 受付検収窓口前
- ◆講師控室内
- ◆種月館（3号館）4階
情報グループ学習室「PAO」前
- ◆本部棟1階 財務部掲示板前

※1度に30冊以上の書籍等をご提供くださる場合は、募金事務室へご連絡ください。



駒澤大学古本募金
Webサイト

担当：募金事務室（本部棟1階）

駒澤大学古本募金は、SDGs17の目標のうち「1.貧困をなくそう」、「4.質の高い教育をみんなに」、「12.つくる責任つかう責任」に貢献する取り組みとして実施しています。

関連するSDGs





法科大学院「市民ロースクール」

法科大学院

駒澤大学法科大学院では、世田谷区にある唯一の法科大学院として、身近な法律の問題に関する情報や知識を提供するための連続講座「[市民ロースクール](#)」を開催しています。

[第21回 市民ロースクール](#) 【2024年2月10日（土）10：00～11：30】

「人と動物の共生する社会の実現に向けて」

[第22回 市民ロースクール](#) 【2024年7月6日（土）10：00～11：30】

「裁判員に選ばれたらどうする？元裁判官が裁判員制度について解説します！」

[第23回 市民ロースクール](#) 【2024年12月21日（土）10：00～11：30】

「相続に関するギモン、すべて解決します！ー相続・遺言の基礎知識ー」

関連するSDGs



法科大学院「無料法律相談」

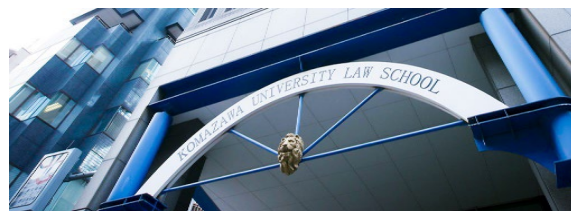
法科大学院

法曹養成機関である駒澤大学法科大学院においては、法学理論だけでなく実務の基礎についても実践的な教育を必要とします。臨床教育の一環として、また世田谷区唯一の法科大学院としての地域貢献を目的として、年に数回、「[無料法律相談](#)」を開催（共催・後援）しています。

2024年度

春季：[無料法律相談【2024年5月18日（土）】](#)

秋季：[無料法律相談【2024年11月30日（土）】](#)



関連するSDGs





2024(令和6)年度「駒大生社会連携プロジェクト」

駒大生による5件の社会連携プロジェクトが実施されました

学術研究推進部

社会連携課(社会連携センター)

駒澤大学では、本学における社会連携・地域貢献にかかわる様々な教職員と学生の活動への支援を目的とした学内公募型の助成「[駒大生社会連携プロジェクト](#)」を、令和4年度から行っております。令和6年度は、まちづくり・地域づくり部門、産学官連携部門、SDGs部門の3つのテーマを設け、計6件の申請がありました。外部審査員及び社会連携委員会等で審議した結果、5件のプロジェクトが採択され、プロジェクト支援金として申請された金額の全額が交付されることが決定しました。

産学官連携部門

【大学生による埋蔵文化財活用事業の実践モデルの構築】

(文学部 歴史学科 考古学専攻 藤野 一之准教授)

【ANA創業者美土路昌一の経営理念の研究】(経営学部 市場戦略学科 小野瀬 拓教授)

SDGs部門

【サステナブル・アクション・プロジェクト (SAP)

～SDGsへの行動変容とその広報活動による駒澤大学のサステナブル・ブランドの向上】

(経営学部 経営学科 青木 茂樹教授)

【持続可能な放射線リテラシー教育：自作教材を通じた教育連携の拡大と普及】

(医療健康科学部 診療放射線技術科学科 村田 渉講師)

【障がい者の雇用に関する研究】(経営学部 経営学科 村山 元理教授)

5月14日(火)に、[採択決定通知書交付式](#)が開催され、各務洋子学長より、採択決定通知書とともに激励のメッセージが送られました。2025年1月末の期間終了まで、各プロジェクトのメンバーは熱心に活動を続け、大きな成果を挙げました。



各プロジェクトの活動内容は、駒大生社会連携プロジェクトのニュースレター『[SEED](#)』において、広報担当の学生が詳しく紹介しています。



2024(令和6)年度SDGs研修	
「駒澤大学×SDGs」と題したオンデマンド研修	
学術研究推進部	社会連携課(社会連携センター)

本学らしい「SDGs」のあり方について、学生・教職員が一層理解を深める機会とするとともに、本学の関係者の皆様にお伝えするツールとして、2023年3月より、[駒澤大学公式YouTubeチャンネル「駒澤大学×SDGs」](#)においてSDGs研修動画を配信しております。

2024（令和6）年度SDGs研修

「 北欧の大学を中心としたサステナビリティの推進体制 」	経営学部 市場戦略学科 教授	青木 茂樹
「 竹林のランドスケープ・デザイン 」	文学部 地理学科 教授	鈴木 重雄
「 学生自らが興味を持ち主体的に学習する教育 」	医療健康科学部 診療放射線技術科学科 教授	近藤 啓介
「 自作教材で広がる放射線リテラシーの輪：持続可能な教育モデルへの挑戦 」	医療健康科学部 診療放射線技術科学科 講師	村田 渉



企業家研究におけるSDGs使用の研究	
国際会議において同研究領域でのSDGsへの言及を発表しました	
経営学部	小野瀬 拓

企業家研究（Entrepreneurship Studies）における「SDGs」への言及について、国際会議で発表しました。世界の企業家研究においてSDGsが言及されることが確認できたものの、本格的な議論には至っていないことを明らかにしています。また、その研究成果は論文として発表されました。

- (1) “SDGs and Entrepreneurship Studies (SDGsと起業家研究)” 2024台日SDGs国際學術與海報設計交流研討會、2024年4月20日（会場：台湾台南市 台糖長榮酒店 主催：台灣SDGs協會・ビジネスクリエーター研究学会）。
- (2) “Frequency of Use of SDGs in Entrepreneurship Research” ICOI 2024: 15th International Conference of Organizational Innovation, July 24, 2024, (Hoa Sen University (Ho Chi Minh City, Vietnam))
- (3) Onose, H., (2024) Frequency of Use of SDGs in Entrepreneurship Research. *International Journal of Organizational Innovation*, 17 (2), 2024, pp. 25-36.



リンク集

その他の取組みについては、大学公式ホームページをご参照ください。

駒澤大学サイトホーム>ニュース

掲載日	テーマ
2024. 03. 15	医療健康科学部 新井 知大 講師が環境省から受託した研究事業が完了しました
2024. 03. 15	文学部歴史学科考古学専攻の学生が毛呂山町歴史民俗資料館にて企画展を開催しました
2024. 04. 08	令和5年度「駒大生社会連携アイデアコンテスト」の結果について
2024. 06. 13	文学部歴史学科考古学専攻の学生が世田谷区奥沢城跡の調査を行いました
2024. 07. 24	現代応用経済学科新入生セミナーを開催しました
2024. 07. 25	文学部歴史学科考古学専攻の学生が榛東村長久保古墳群出土品の調査を行いました
2024. 08. 27	経済学部「アントレプレナーシップ養成講座」において世田谷区と楽天がコンテストを実施しました
2024. 09. 10	文学部歴史学科考古学専攻の学生が加能里遺跡の発掘調査現場の見学を行いました
2024. 09. 26	文学部歴史学科考古学専攻の学生が株式会社パレオ・ラボのインターンシップに参加しました
2024. 12. 18	交換留学生在が世田谷区立弦巻中学校「留学生の話を聞く会」に協力しました

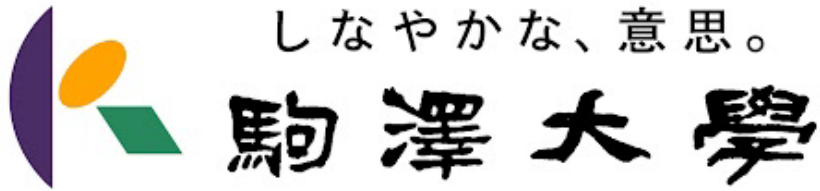


リンク集

その他の取組みについては、大学公式ホームページをご参照ください。

駒澤大学サイトホーム>イベント

掲載日	テーマ
2024. 02. 05	「駒沢周辺の歴史探索ツアー ―駒沢・深沢にある名建築・庭園を訪ねる旅―」開催
2024. 05. 16	2024年度駒澤大学仏教学会第1回定例研究会のお知らせ
2024. 06. 20	令和6年度第1回駒澤大学仏教学会公開講演会のお知らせ
2024. 07. 10	令和6年度駒澤大学文学部地理学科第1回公開講演会のお知らせ
2024. 08. 21	芝崎厚士『グローバル関係の思想史 万有連関の世界認識研究へ』（晃洋書房、2024年）合評会のお知らせ
2024. 09. 06	知ろう！探ろう！古墳時代の榛東村～長久保古墳群の調査を通して～
2024. 10. 10	2024年度駒澤大学仏教学会第2回定例研究会のお知らせ
2024. 10. 10	駒大生社会連携プロジェクト展示「長久保古墳群」
2024. 10. 23	公開講演会「ユダヤ文明の20世紀―師資相承の学の復活―」
2024. 10. 30	教職課程部門公開講演会「ワークキャンプと共同生活を通じた若者たちの躍動と成長」
2024. 11. 08	令和6年度駒澤大学仏教学会第2回公開講演会のお知らせ
2024. 11. 14	第67回駒澤大学国文学大会のお知らせ
2024. 11. 14	2024年度駒澤大学経済学部公開講座のお知らせ
2024. 11. 20	令和6年度駒澤大学文学部地理学科第2回公開講演会のお知らせ
2024. 11. 26	芝崎厚士『グローバル関係の思想史 万有連関の世界認識研究へ』出版記念講演会
2024. 11. 30	現応ラボ企画「2024年度駒澤大学社会連携ゼミ交流会」
2024. 12. 11	大津ゼミ・姉齒ゼミ合同企画緊急映画会『タクシー運転手 約束は海を越えて』



発行日 2025（令和7）年3月31日
発行 駒澤大学社会連携委員会
事務局 駒澤大学 学術研究推進部 社会連携課（社会連携センター）